

- 問1 16世紀のポルトガルによる日本への鉄砲伝来やキリスト教の布教は、当時のヨーロッパにおける宗教的情勢と深く関わっています。カトリック諸国がアジアへの進出を強めた背景について、正しい用語を組み合わせた説明を選びなさい。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. ルネサンスの影響で誕生したプロテスタントが、カトリックを国外へ追放するために海外進出を支援した。 | 2. 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。 | 3. 十字軍の遠征によってカトリックが衰退したため、新しく誕生したプロテスタントが海外貿易を主導した。 | 4. 宗教改革を弾圧したカトリック諸国が、プロテスタントと協力してアジアでのキリスト教布教を進めた。 |
|---|--|---|--|
- 問2 フランシスコ・ザビエルによる日本での活動に関する説明として、最も適切なものはどれか。 (2017年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
| 1. 織田信長と会見し、京都での布教と南蛮寺の建設を許された。 | 2. 大名らに勧め、天正遣欧少年使節をローマへ派遣させた。 | 3. 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。 | 4. 種子島に漂着し、領主の種子島時堯に鉄砲を伝えた。 |
|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|
- 問3 室町時代後期から戦国時代にかけて、実力で領地を拡大した戦国大名たちが、幕府の法律に頼らず自らの領国を統治するために独自に定めた法律を何と呼ぶか、正しい名称を選びなさい。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|----------|-----------|
| 1. 御成敗式目 | 2. 分国法 | 3. 武家諸法度 | 4. 公事方御定書 |
|----------|--------|----------|-----------|
- 問4 室町時代の後半から戦国時代にかけて、各地で戦国大名が勢力を伸ばした背景として最も適切な説明はどれですか。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 幕府が各地の有力な農民に領地を分け与え、新しい支配層として育成したため | 2. 朝廷の権威を重んじる「尊王攘夷」の考えが広まり、幕府を打倒する勢力が現れたため | 3. 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため | 4. 特定の家柄のみが政治を独占する「門閥政治」が行われ、それに反発した新興勢力が台頭したため |
|--|--|--|---|
- 問5 戦国大名が領地の生産力を高め、軍事力を強化する(富国強兵)のために行った政策の説明として、正しいものはどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 農民に「五人組」を組織させて連帯責任を負わせることで、年貢の納入を確実なものにしようとした。 | 2. 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。 | 3. 領内の商人を城下町に集めるのではなく、各地の農村に分散させて住まわせることで、地方経済の安定を図った。 | 4. キリスト教の布教を全国的に推奨することで、ヨーロッパの先進的な武器や文化を組織的に取り入れようとした。 |
|---|--|--|--|
- 問6 15世紀末、ポルトガルの航海者がアフリカ大陸南端の喜望峰を回ってインドに到達したことで、ヨーロッパからアジアへの直接的な海上ルートが確立されました。この人物が切り開いた「インド航路」について述べたものとして、最も適切なものを答えなさい。 (2017年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| 1. フェルディナンド・マゼランが、世界一周航海の一環として立ち寄った。 | 2. マルコ・ポーロが、陸路でアジアを訪れた帰路に発見した。 | 3. クリストファー・コロンブスが、西回りでアジアを目指す途中に到達した。 | 4. バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。 |
|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
- 問7 15世紀に発生した応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したことで、家臣が主君を倒したり、地方の武士が守護大名を追放したりして実権を握る事例が全国で見られるようになりました。このように、実力のある者が上の身分の者の地位を奪う社会的な風潮を何と呼びますか。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|-------|---------|
| 1. 版籍奉還 | 2. 下剋上 | 3. 一揆 | 4. 尊王攘夷 |
|---------|--------|-------|---------|
- 問8 16世紀の記録において「長さ二、三尺の筒状の道具で、火を放つと雷のような音がする」と描写された武器が、日本の築城技術に与えた影響として正しいものはどれですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 鉄砲による火災を防ぐため、城の周囲に広大な水堀を作るのをやめ、空堀が主流となった。 | 2. 鉄砲の重さに耐えられるよう、城の主要な構造物がすべて巨大な岩石のみで作られるようになった。 | 3. 鉄砲の射程距離を避けるために、城はすべて人里離れた険しい山頂にのみ築かれるようになった。 | 4. 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。 |
|--|--|---|--|
- 問9 日本の歴史における主要な出来事を時系列で整理したとき、鎌倉幕府の成立、室町幕府の成立、応仁の乱に続いて、16世紀に発生した出来事としてふさわしいものはどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|---------------|----------------|------------------|
| 1. 御成敗式目の制定 | 2. 種子島への鉄砲の伝来 | 3. 元寇による博多への侵攻 | 4. 日明貿易(勘合貿易)の開始 |
|-------------|---------------|----------------|------------------|
- 問10 室町時代後半から戦国時代にかけて見られた、身分や立場が下の者が、実力によって上の者に打ち勝ち、その地位を奪う社会的な風潮を何といいますか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|----------|
| 1. 下剋上 | 2. 尊王攘夷 | 3. 一向一揆 | 4. 御成敗式目 |
|--------|---------|---------|----------|
- 問11 1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に初めて鉄砲が伝えられた場所はどこですか。その地理的な位置関係を示す説明として正しいものを選んでください。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|
| 1. 九州地方の北部に位置し、大陸との交流が盛だった福岡県の博多 | 2. 四国地方の南部に位置し、太平洋に面した高知県の土佐清水 | 3. 関東地方の東部に位置し、東京湾の入り口にあたる千葉県のパウ質 | 4. 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島 |
|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|------------------------------|
- 問12 16世紀後半、甲斐や信濃の一部では「甲州ます」と呼ばれる独自の枴が使用されていました。中央の京で使われていた標準的な枴と容量が異なる「甲州ます」のような度量衡が地域ごとに存在していたことは、当時の政治体制についてどのようなことを示唆していますか。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 海外貿易を円滑に進めるため、輸出入の拠点ごとに異なる計測単位を用いることが幕府より推奨されていたこと | 2. 足利義昭が強力な権力によって全国の度量衡を統一し、各地域の経済活動を完全に管理していたこと | 3. 農業技術が未熟であったため、収穫量を正確に測るための全国一律の基準を作る必要性がなかったこと | 4. 天皇を中心とした中央集権的な政治体制が、全国的な経済基準を統一するまでには至っていなかったこと |
|---|--|---|--|
- 問13 16世紀半ばにキリスト教が日本に伝えられた当時の社会情勢や、その後の歴史的経緯について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。 | 2. 当時の日本は鎖国体制が完成しており、ヨーロッパ諸国のうちイギリス一国とのみ、長崎の出島で貿易を行っていた。 | 3. 豊臣秀吉は海外貿易の利益を重視し、バテレン追放令を出した後もキリスト教徒を一貫して手厚く保護し続けた。 | 4. 織田信長は仏教勢力との対抗を優先し、キリスト教の布教を厳しく禁じてキリスト教徒を弾圧した。 |
|--|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。	当時のヨーロッパでは、宗教改革の進展によってキリスト教の世界がプロテスタントとカトリックに二分されていました。特にポルトガルやスペインなどのカトリック諸国にとって、海外進出は単なる商業的な利益だけでなく、プロテスタントに対抗してカトリックの教えを世界に広めるという重要な使命を持っていました。このため、大航海時代の進出は貿易とキリスト教の布教が一体となって進められました。
問2	答え 3 1549年に鹿児島へ上陸し、キリスト教の布教を始めた。	ザビエルは1549年に鹿児島に上陸して布教を開始しました。織田信長と会見して京都での布教を許されたのはルイス＝フロイスらであり、少年使節の派遣を勧めたのはヴァリニャーノです。また、鉄砲を伝えたのは1543年に種子島に漂着したポルトガル人商人であり、宣教師ではありません。
問3	答え 2 分国法	戦国大名は、自らの力で手に入れた領地を安定して支配（領国支配）するために、家臣の行動を制限したり、領民の争いを裁いたりするための独自のルールを定めました。これは「家法」とも呼ばれます。鎌倉時代の「御成敗式目」や、後の江戸時代の「武家諸法度」と混同しないよう注意が必要です。
問4	答え 3 幕府の権威が衰え、身分の低い者が実力で上の者をしのぐ「下剋上」という風潮が強まったため	14世紀から15世紀にかけての年表をたどると、幕府の統制力が弱まると同時に、各地で実力主義による勢力争いが激化していることがわかります。この「下剋上」の動きによって、従来の守護などの家柄に関係なく、軍事力や政治力のある者が戦国大名として自立していきました。
問5	答え 2 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。	戦国大名は、戦いに必要な兵糧や資金を確保するため、農業と鉱山の振興に力を入れました。暴れ川を抑えるための治水・灌漑によって田畑を増やし、金山や銀山の開発によって得た富を軍事費や外交資金に充てました。なお、「五人組」の制度は江戸時代に確立されたものであり、戦国時代の制度ではありません。
問6	答え 4 バスコ・ダ・ガマが、香辛料などの交易を目的として到達した。	大航海時代において、ポルトガルはイスラム勢力が支配する陸路を避け、直接アジアの香辛料を手に入れるために海路の開発を進めました。1498年、バスコ・ダ・ガマがアフリカ南端の喜望峰を越えてインドのカリカットに到達したことで、アジアとの直接的な海上交易ルートが確立されました。これにより、ヨーロッパの経済・社会に大きな変化がもたらされました。
問7	答え 2 下剋上	室町時代の中期から戦国時代にかけて、それまでの身分秩序が崩れ、実力主義の時代へと移行したことを示す言葉です。この風潮によって、守護代や国人といった下の立場にいた者が、主君である守護大名に代わって戦国大名として台頭する動きが加速しました。背景には、幕府の統制力の低下と、土地や民衆を直接支配しようとする実力重視の価値観の広がりがあります。
問8	答え 4 鉄砲の威力に対抗するため、高い石垣や厚い壁、複雑な堀を備えた城が築かれるようになった。	鉄砲の普及は、城のあり方を大きく変えました。それまでの簡素な「山城」から、鉄砲の攻撃に耐えうる強固な石垣や、敵を迎え撃つための窓（狭間）を持つ天守などを備えた「平城」や「平山城」へと進化しました。これにより、城は軍事拠点としてだけでなく、領主の権威を象徴する政治的中心地としての役割も強めることとなりました。
問9	答え 2 種子島への鉄砲の伝来	鎌倉時代の御成敗式目制定や元寇、室町時代の幕府成立や応仁の乱を経て、戦国時代に入った1543年にポルトガル人によって鉄砲が伝えられました。これは時系列において、室町幕府が衰退し戦国大名が台頭する時期にあたります。
問10	答え 1 下剋上	応仁の乱以降、幕府や守護の権威が衰えたことで、家柄よりも軍事力や政治力といった実力が重視されるようになりました。家臣が主君を倒して実権を握るといったこの動きは、戦国時代の社会を象徴する現象です。選択肢にある「尊王攘夷」は幕末の思想、「一向一揆」は浄土真宗の門徒らによる抵抗運動を指します。
問11	答え 4 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島	1543年、九州の南にある種子島にポルトガル人が漂着した際、島主の種子島時堯が彼らから火縄銃を購入したことで日本に鉄砲が伝来しました。この出来事をきっかけに、日本国内でも鉄砲の製作が行われるようになり、全国へ普及していきました。
問12	答え 4 天皇を中心とした中央集権的な政治体制が、全国的な経済基準を統一するまでには至っていなかったこと	16世紀後半の日本では、武田氏などの有力な戦国大名が独自の領国支配を行っていました。甲斐や信濃で「甲州ます」という独自の基準が使われていた事実は、長さや重さ、容積の基準である「度量衡」が全国で統一されていなかったことを示しています。これは、当時の天皇や室町幕府といった中央の権力が、全国的な経済基準を強制できるほどの中央集権的な政治体制を確立できていなかったという背景があります。その後、織田信長や豊臣秀吉による天下統一の過程で、次第に度量衡の統一が進められていくことになります。
問13	答え 1 フランシスコ・ザビエルによる布教以降、南蛮貿易の利益を求める戦国大名の中には、キリスト教に入信するキリシタン大名が現れた。	キリスト教の布教は、ポルトガルやスペインとの「南蛮貿易」と密接に結びついていました。鉄砲や火薬、生糸などの物資を得るために、九州を中心とした戦国大名は布教を許可し、自らも入信するケースが見られました。織田信長は布教を保護しましたが、その後の豊臣秀吉や江戸幕府は、キリスト教が封建的な支配体制を揺るがすことを恐れ、禁止へと方針を転換しました。